

令和3年当院における時間外受診者状況及び救急車等搬入状況

Statistics of outpatients in the emergency room of Sunagawa city medical center

砂川市立病院事務局医事課

Division of patient care, Department of administration, Sunagawa City Medical Center

明円彬 倉島久徳 川端祥子 小柳貴敬 平賀裕介 上村光 中村優 関口僚 中村弥生

小町絵梨 服部一花 高木湧佑

Akira Myoen Hisanori Kurashima Sachiko Kawabata Takayuki Koyanagi Yusuke Hiraga

Hikari Uemura Yu Nakamura Ryo Sekiguchi Yayoi Nakamura Eri Komachi Ichika Hattori

Yusuke Takagi

要旨

当院の令和3年時間外受診者状況と救急車等患者搬入状況について集計を行ったので報告する。

Key words: Statistics, Outpatients, Emergency

はじめに

当院は、昭和15年の開院以来、幾多の困難を乗り越え中空知地域の基幹病院として地域センター病院、災害拠点病院、地域がん診療拠点病院、地域周産期母子医療センター、第2種感染症指定医療機関など数多くの指定を受けるに至っている。

昭和43年に建設された本館をはじめ施設の老朽化等により新病院建設に着手し、平成22年10月に新本館を開院、翌年10月には南館を開院させ、地域住民が安心して受診できる施設整備と診療体制を構築してきた。

中空知地域に不足していた救急医療体制の整備を図り、平成23年12月には地域救命救急センターの指定を受けた。平成25年12月には更なる重症患者の救命率向上を図ることを目的にドクターカーの運行を開始し、令和3年8月からは南空知に位置する美唄市からの要請にも対応を拡大したところである。

調査方法

期間：令和3年1月1日から令和3年12月31日までの1年間

対象：救急外来時間外受診者、ドクターヘリ・ドクターカー受診者

方法：救急患者一覧表より集計

※時間外とは、診療時間外（午後5時から翌日午前8時30分）と休日（土曜、日曜、祝祭日の午前8時30分から翌日午前8時30分）のことである。

調査内容

- 1) 来院方法 / 転帰（時間外受診者）（表1）
- 2) 受付診療科 / 転帰（時間外受診者）（表2）
- 3) 年齢層 / 転帰（時間外受診者）（表3）
- 4) 住所（時間外受診者）（表4）
- 5) ドクターヘリによる要請（搬入）状況（表5）
- 6) ドクターカーによる要請（搬入）状況（表6）

考察

表1より、診療時間外であろうと救急車はもちろんのこと、ドクターヘリ・他院からの転院搬送、保健所からの依頼の受け入れを行っていることがわかる。また、令和2年より新型コロナウイルス感

染症が流行したことから、保健所依頼による検査・入院が発生したため来院方法に追加している。受診者数は7%程度減少しているが、独歩から救急車・ドクターヘリまで7000人程の患者を受け入れている。一次救急から三次救急まで・24時間365日医療を提供していると言える。

表2より、救急科だけでなく、他20診療科で受入実績があることから、入院・帰宅にかかわらず必要に応じて容態に合わせた専門的な医療の提供が行なわれていたことがわかる。

表3より、70～79、80歳以上の受診者割合が年々増加、かつ帰宅患者割合も下がっている。今後この傾向が進むのか注視したい。

表4より、中空知医療圏が87.4%、それ以外の地域が12.6%占めている。二次医療圏を超えた地域からも一定割合受診者がいることから、当院が地域救命救急センター病院として機能をしていることがわかる。住所患者割合では、砂川市以外の他市町村の割合が徐々に大きくなってきている。当院が三次救急により力を注ぐためには、軽症者に関しては他病院の救急外来と連携していく必要がある。

表5より、入院を要する外傷が大半を占めている。

表6より、ドクターカーへの要請は52件あり、砂川消防からの要請だけではなく近隣市町村からの要請も多くあり、重症患者の救命率向上を図れていると考えている。

おわりに

令和3年も、令和2年に引き続きコロナ禍という特殊な状況であった。その中でも、「地域救命救急センター病院」として中空知医療圏を中心に数多くの時間外受診者を受け入れてきた。当院の救急外来は地域に対して重要な役割を担っているのではなく、必要不可欠なものになっていることがこの集計で改めて認識した。地域に根ざし、地域に愛され、貢献する病院を実現するためにも、今後も統計の集計を続け、分析し、報告していきたい。